

まちなか再生・ にぎわい創出



みやもと かずひろ
宮本 和宏
もりやま
守山市長(滋賀県)



おがわ びん
小川 敏
おおがき
大垣市長(岐阜県)



おかだ たかお
岡田 高大
おおの
大野市長(福井県)



まえだ こうきち
前田 康吉
たきかわ
滝川市長(北海道)

司会・コーディネーター

ほその すけひろ
細野 助博

中央大学総合政策学部教授

行政・経済・文化などの都市機能が集積するまちの玄関口として発展してきた中心市街地。しかし、郊外へのショッピングモール進出などの影響を受け、その活力が著しく低下しているケースが少なくありません。その対策として、近年、交通インフラの再整備、中心部への行政機能の再移転、さらには商業機能を担う商店街へのテコ入れなどの取り組みが進められ、成果を挙げる都市が増えています。

今回の座談会では、まちなかにぎわい創出に取り組む前田康吉・滝川市長、岡田高大・大野市長、小川敏・大垣市長、宮本和宏・守山市長にお集まりいただき、取り組みの内容、その効果、今後の展望などについてお話しいただきました。

(本文中の役職名・敬称は一部省略しています)

今後、中心市街地は再評価されるはず。高齢者向け住宅の整備を含め、活性化の鍵となるまちなか居住を促進したい。



前田 康吉
滝川市長(北海道)

中心市街地活性化基本計画に基づき、独自のまちなか再生策を展開

細野 モーターゼーションの進展、郊外型の大規模商業施設の進出などにより、かつてのにぎわいが失われて久しいといわれる中心市街地。このテコ入れのために、平成18年には都市計画法

るようになりました。一方で、こうしたハード整備だけではなく、市民力、地域力を高めるきっかけとして実施した「越前大野城築城430年祭」をはじめ、ソフト事業にも力を入れています。430年祭では、記念パレードなどの市主催事業や、「越前おおの」とんちゃん祭」をはじめとした市民自主事業など、1年を通してさまざまなイベントを実施しましたが、その成果として、中心市街地の観光入り込み客数を大幅に増やすことができました。**小川** 大垣市の中心市街地は太平洋戦争の空襲により、当時国室に指定されていた大垣城も含め、その大半が消失してしまいました。これに伴い、明治以降、長い時間を掛けて形成されてきたわがまちの中心市街地商店街も灰燼に帰しましたが、終戦後、住宅併用の近代的な鉄筋コンクリート商店街として再建。これが、新しいモデル商店街として評判を呼び、全国の商業関係者の注目を集めました。ピークの昭和30年代から40年代にかけては、市内外から多くの買い物客が訪れて、大変なにぎわいを見せたものです。ところが、全国の数多くの地域と同様に、車の社会の進展や、周辺のまちに立地された郊外のショッピングセンターの影響で、次第に中心市街地の活力は失われていきました。

そのような中、現在、大垣市ではまちなかにかつてのにぎわいを再び取り戻そうと、さまざまな活性化事業を展開しています。その一つが中心市街地商店街一帯を舞台に、毎月第一日曜日に行われる「大垣市商店街振興組合連合会元氣ハツラツ市」の開催です。当日は朝市やフリーマーケット、各店のワゴンセール、さらには歌・楽器演奏・ダンスなどのステージイベント

と中心市街地活性化法が改正され、中心市街地活性化基本計画の内閣総理大臣による認定制度の創設、支援措置の拡充など、活性化に向けた新しい枠組みがつけられました。現在、全国の自治体では、それぞれの地域に応じた基本計画を策定し、取り組みを進めているところ。それでは、各市の中心市街地の現状、活性化に向けた取り組みなどについて、お話しください。

前田 札幌市と旭川市の中間に位置する滝川市は、交通の要所でもあり、近隣市町の中心都市として、主に商業を中心に発展してきたまちです。しかし、炭鉱の閉山に伴い、周辺の産炭地では急激に人口が減少。これにより、かつては他地域から多くの買い物客でにぎわっていた本市の中心市街地商店街から客足が遠のく結果となりました。加えてバイパス沿いに進出してきた大型ショッピングセンターの影響もあり、今やシャッター通りと化しています。

そこで本市では、中心市街地活性化基本計画に基づき、中心市街地にある市立病院の改築、市立図書館やまちづくりセンターのまちなかへの移転、さらには商店街関係者によるコミュニティ活動の活発化など、中心市街地ににぎわいを生むためのさまざまな事業に取り組んできました。現段階では、まだ思うような成果が得られていない事業もありますが、予想外に効果があったのが高齢者に対する施策でした。市で整備した高齢者向けの市営住宅には、他地域の住民も含めてすぐに居住者が決まるなど、大きな反響がありました。今後は、高齢者をまちなか再生に向けた起爆剤と位置付け、関連施策をより積極的に進めていきたいと考えています。

が実施され、多くの人出でにぎわいます。また、大垣市は、かの松尾芭蕉が奥の細道の紀行を終えた地域としても知られています。これを地域資源として交流人口の拡大に生かそうと、市街地内のゆかりの地区を「奥の細道むすびの地」と位置付け、「奥の細道むすびの地記念館」の整備をはじめ、さまざまなハード整備に取り組んでいます。

交流人口の増加が活性化には不可欠。市外からの来訪者を加えた「ふれあい交流人口」の増加を目標にしています。



岡田 高大
大野市長(福井県)

そのためには、バリアフリーの市街地整備が不可欠です。既にJR北海道の協力を受けて、JR駅舎のバリアフリー化事業も実施しましたが、「人にやさしいまち、人がやさしいまち」の考えの下、商店街や駅前広場などの関連施設のバリアフリー化にも取り組んでいきたいと考えています。

岡田 大野市では改正「中心市街地活性化法」の施行以後、人口5万人以下の都市では全国で初めて、中心市街地活性化基本計画の認定を受けました。そのコンセプトは「原点への回帰」です。織田信長の部将であった金森長近公が大野城を築城し、その山麓に基盤の目の城下町を整備した16世紀後半をまちづくりの原点と位置付け、「人が集う、活気に満ちた城下町の再生」を目指しています。



そのための代表的な事業として、中心市街地の旧小学校跡地に整備したのが、市民・観光客などが集うまちなか拠点施設「越前おおの結ステーション」です。中心市街地の観光や商店街の情報を提供する「輝センター」、地元逸品を取り扱う「越前おおの結楽座」、歴史的建造物を移築し、休憩所として整備した「藩主隠居所」など、各機能を一カ所に集約させたことで、ワンストップでさまざまなサービスを提供でき

宮本 私は平成18年から3年間、国土交通省から守山市に向向して、中心市街地活性化基本計画の策定に携わりました。昨年2月に市長に就任したのも、自分がつくった計画を自ら推進したいとの思いがあったからです。計画の基本理念は「絆と活力ある「共生都市」の創造」。コミュニティの希薄化が懸念される中、「人と人の絆」を中心に据えて、住みよい、良好な市街地形成を図ることを目標に、本市の地域資源である「文化」「歴史」「水」を生かしながら、総合的に取り組みを進めています。

特に力を入れているのが幅広い年代の市民が日常的に交流できる環境の整備です。そのために、耐震上問題があった中心市街地の小学校の建て替えに併せて、幼稚園を合築。ここに、中心市街地活性化交流プラザやあまが池親水緑地などを一体的に整備することで、子どもから高齢者まで幅広い世代が共生できる拠点をつくることができました。

さらに、中山道の旧宿場町だった地域の歴史性にも目を向け、宇野宗佑元内閣総理大臣の生家だった造り酒屋を「歴史文化まちづくり館」として整備したり、市街地としては珍しい、ホテルも生息する水辺環境を生かし、散歩道・遊歩道や、市民が休憩できる小公園などの整備も進めています。

これらのハード整備に対して約60億円を投じましたが、これで行政の取り組みはほぼ終了。商店街の空き店舗もほぼ埋まりましたし、歩行者や自転車の通行量も、目標値を大幅に超えるなど、大きな成果が挙がっています。後は、民間の取り組みを積極的に促し、相乗効果を生んでいければと考えています。



宮本 和宏
守山市長(滋賀県)

「行政は民間の半歩前を
行くこと」が基本的な考え。
行政が民間を引っ張り、
民間の取り組みを
促すことが重要です。

小中学生の遠足などの誘致も積極的に進めていますが、「越前大野城築城430年祭」の成功体験もありますから、何とかおもてなしのまちづくりを推進し、目標を実現していきたいと考えています。

小川 恐らくその際に、鍵となるのは、まちなか居住の促進でしょう。滝川市では、利便性の高いまちなかに、高齢者向け住宅をさらに増やし、居住促進を図るとともに、それまで高齢者が住んでいた戸建て住宅を活用するために、子育て世代への住み替え支援などを推進し、ミスマッチを解消することや、商業・公共施設など、さまざまな機能をまちなかに移し、よりコンパクトなまちづくりを進めていければと考えています。

細野 皆さんも指摘になったように、大型ショッピングセンターの郊外への進出などにより、中心市街地のにぎわいが失われています。しかし、今や超高齢社会の中で、再び中心市街地が注目されているのも事実です。都市機能がコンパクトに集約されているために、特に高齢者にとっては暮らしやすい環境であると、再評価を受けています。こうした中心市街地の長所をにぎわい再生に結びつけることも必要だと思いますが、いかがでしょうか。

前田 私も同様の意見を持っています。これまでは郊外型の大型ショッピングセンターが一人勝ちの時代が続きましたが、今後もそうした傾向が続くとは限りません。むしろ、大型商業施設のメッカであるアメリカでは、近年、そうした施設の撤退が相次ぐ一方で、逆に中心市街地へ、都市機能の集積が進んでいるといわれています。日本においても、今後、同じような動きが見られるのではないのでしょうか。

住みやすい中心市街地を目指す

岡田 大野市は四方を山に囲まれた盆地ですが、その盆地全体を道の駅に見立てて、他地域にPRする「越前おおのまるごと道の駅ビジョン」を掲げています。人、歴史、文化、伝統、自然環境、食など大野市が誇る魅力ある地域資源のすべてを磨き上げ、地域情報の発信を市内各地で行う取り組みです。

宮本 守山市でも「文化」「歴史」「水」などの地域資源を活用した取り組みを行うことで、市内外からの注目度も上がりました。さらに、まちに活力が生まれることで、フランス料理や沖縄料理をはじめとした、魅力的な飲食店も新しく開店するなど、好循環が生まれています。今後は市街地内にある各エリアの回遊性を創出するための仕掛けをしながら、よりにぎわいの創出に向けて取り組んでいきたいと考えています。

前田 私も地域ならではの資源が、活性化には欠かせないと思います。滝川市の最大の観光資源は栽培面積が日本一の菜の花畑ですが、この壮大な景色を見ようと、中国からも観光客が訪れています。滝川市は千歳空港からのアクセスも良好ですから、さらにその魅力を市外にアピールし、中心市街地にも多くの人を呼び込めればと考えています。

小川 本市の中心市街地には先ほど紹介した「奥の細道むすびの地」のほかにも、「大垣城」や「水の都」としての観光資源も豊富です。この3つを観光のシンボルとして、その魅力を高めながら、さらに活発に情報発信していきたいと考えています。

前田 私も地域ならではの資源が、活性化には欠かせないと思います。滝川市の最大の観光資源は栽培面積が日本一の菜の花畑ですが、この壮大な景色を見ようと、中国からも観光客が訪れています。滝川市は千歳空港からのアクセスも良好ですから、さらにその魅力を市外にアピールし、中心市街地にも多くの人を呼び込めればと考えています。

大垣市でも、中心市街地の居住人口を増やそうと、大垣駅周辺の大規模な再開発を進めています。特に、駅南街区では、商業施設複合型の超高層マンションの建設が進められるなど、居住環境の整備を急ピッチで進めます。これまでに毎年のように増え続けていた市の人口がリーマンショックの影響で、初めて減少してしま



小川 敏
大垣市長(岐阜県)

市外からのお客さまを
呼び込むために、
地元にあるものを生かし、
それを観光資源として
磨いていくことが不可欠です。

細野 まちなか再生は、行政だけの力では実現できません。当事者の商店街関係者のもとより、さまざまな関係者を巻き込んで展開していく必要があります。行政としても、さまざまなまちづくりの担い手たちとパートナーシップを組んで、施策を行うことが重要だと思いますが、こ

地域を巻き込み、民間活動を促す

前田 まちなかのにぎわいを取り戻すためには、地場産業の振興も必要です。まちに活力がなければ、中心市街地ににぎわいが生まれませんから、そのための方向性として、企業誘致も重要ですが、現状としては大都市圏の企業を新たに誘致するのは難しい。それよりも今ある地場産業をブラッシュアップする方が効果的だと考えています。滝川市でも農産物の六次産業化を進めたり、農業の担い手を育成・確保するために生産技術の習得や研修を行う「滝川農業塾」を新たに開設するなど、活発に取り組んでいるところです。



商店街の空き店舗で販売したり、六次産業化で加工品を販売したり、具体的に動き出している取り組みも出てきました。こうした取り組みを通して、地域全体をブランド化し、付加価値を高めていきたいですね。

岡田 この不況の中ですから、ベッドタウンではない地方都市で人口増を実現するのは容易ではありません。しかし、努力次第では観光入込客数を増やすことは可能だと考えています。その意味では、居住人口だけに目を向けるのではなく、交流人口の増加も重要になってくると思います。

前田 この不況の中ですから、ベッドタウンではない地方都市で人口増を実現するのは容易ではありません。しかし、努力次第では観光入込客数を増やすことは可能だと考えています。その意味では、居住人口だけに目を向けるのではなく、交流人口の増加も重要になってくると思います。

小川 守山市はありがたいことに、リーマンショック後も変わらず、毎年約1000人ずつ人口が増え続けていますが、このトレンドを維持するためにも、住みやすいまちづくりを進めることが大切だと考えています。そのためにも都市機能の集約化は欠かせません。中心市街地へのアクセスをよくすることで、まちなかの居住者だけでなく、より多くの人がその恩恵を受けられるようにしていきたいと考えています。

しかしながら、まちなか居住の促進で、何とか人口増につなげたいですね。また、大垣市は、医療費が高校生まで無料、67歳以上は1割負担であることもPRしていきたいと思っています。



細野 助博
(中央大学総合政策学部教授)

の点について皆さんのご意見をうかがいたいと思います。

岡田 大野市では、平成22年度に実施した「越前大野城築城430年祭」などのイベントを通して、若者をはじめさまざまな市民団体が活発に活動するようになりました。活性化を目指す担い手たちが増えたことで、まさに活力が生まれています。さらに、何よりもうれしいのは、商店街関係者の意識が変わってきたことです。新しい取り組みも自主的に行うようになってきました。

例えば、中心市街地商店街の神社の境内に、根元がくつついたまま成長しているスギとケヤキの木があるのですが、商店街では異なる木が寄り添うように立つ姿から「良縁の樹」と命名。縁結びのお守りとして、関連商品の販売などを通じて、積極的に売り出しています。これが地元では結構話題になっています。

小川 大垣市も、行政だけでなく、市のさまざまな主体が中心市街地活性化に向けて、積極的に尽力しています。市内にある大学もその一つです。岐阜経済大学では、市や商店街振興組合と連携してイベントの企画や、まちづくりの

提案を行っており、また情報科学芸術大学院大学では空き店舗を利用して作品を展示しています。大垣女子短期大学では元氣ハツラツ市で音楽の演奏を担っています。うれしいことに、こうした形で、中心市街地の活性化に大学生の若い力が貢献しています。

また、若い商店街関係者も、まちづくりプロジェクトとして活躍する石黒靖敏さんを迎え、「石黒塾」を結成。定期的に会合を持ち、市街地活性化プロジェクトを担うなど、活発に活動しています。

宮本 守山市の活性化に向けた考え方は、「行政は民間の半歩前を行くこと」です。まずは行政が多額の投資を行い、その本気度を内外に示す。それにより、民間も守山市での商売に魅力を感じ、活発に活動するようになる。その流れは確実にできていくと感じています。

また、市民の出資によりまちづくり会社「みらいもりやま21」も設立され、さまざまな施設の運営やイベントの展開も担っています。2週間に1度は、私とこのまちづくり会社の社長、さらには商工会議所の会頭と三者で意見交換を交わしていますが、さらに民間の力を促している、活性化の成果を挙げていきたいと考えています。

前田 中心市街地活性化や産業振興に限らず、当初は行政の主導が必要ですが、軌道に乗った民間主導が進めていくことが重要です。そのためにも民間の意識変革が必要です。農業においても、従事者には、工夫次第で所得の向上なども期待できるし、十分魅力もある職業であることを強く意識してもらおうと考えています。

細野 各都市の中心市街地に関する状況や特性

はさまざまですが、皆さんのお話の共通点の一つは、行政のリーダーシップがことのほか重要であるということでした。宮本市長からは、「行政は民間の半歩前を行く」とのお考えもご紹介いただきましたが、行政がビジョンや仕組みを掲げて、民間を引っ張っていくことの大切さを、改めて認識させていただきました。

併せて「まちづくりは人づくり」であるという点も、実感させていただきました。民間を幅広く巻き込み、パートナーとして共に活性化に向けて努力する。そうして、官民を挙げた取り組みに進化させることができるかどうかに、にぎわい創出の成功の鍵があると思います。

今後も、市民と力を合わせ、まちなか再生に向けて積極的に取り組まれることを願っております。本日はありがとうございました。

(平成24年7月11日、全国都市会館にて実施)

本コーナーは隔月掲載となります。次回は1月号に掲載予定です。

